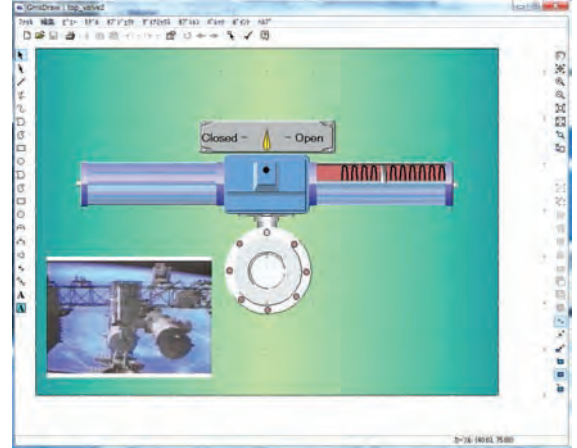


■ WPF コントロールをサポートした SL-GMS Developer & Custom Editor for .NET 新 V3.2 をリリース

2009年5月26日 プレス・リリースより:

SL ジャパンは、SL-GMS Developer & Custom Editor for .NET の最新バージョン 3.2 で、WPF (Windows Presentation Foundation) をサポートすることを、発表しました。製造業やエネルギー分野におけるリアルタイムな監視制御システムに特化したカスタム・エディタを提供しているソリューション・ベンダーは、サード・パーティによって提供されているものを含め、ビジュアルな WPF オブジェクトへのドラッグ & ドロップ・アクセスをプログラミングレスで提供できるようになります。SL-GMS の Microsoft .NET 技術の組み込みによって高度な可視化を提供しているソリューションは、エンドユーザ顧客の生産性向上で貢献しています。

今回の最新版では、SL-GMS を組み込んで再販 (OEM) しているソリューションが、最新の WPF コントロールを迅速に利用することを可能にし、またサード・パーティによって提供されている 3次元やビデオなどの高度なコントロールも容易に取り込みます。ビジュアルなプレゼンテーションが競争上優越となる環境においては、このように最先端グラフィックスに即座にアクセスできることが重要です。



動画を再生する WPF コントロールを組み込んだモデルを SL-GMSDraw エディタで表示した例

WPF は、アプリケーション構築において一貫性のあるプログラミング・モデルを提供し、ユーザ・インタフェースとビジネス・ロジックを明確に分離します。WPF は、Windows プログラムの可視化におけるコンテンツリッチなコントロール、デザインと開発を可能にしています。そして、ユーザ・インタフェース、2次元と3次元のドローイング、固定型または適応型ドキュメント、高度なタイポグラフィ、ベクター・グラフィックス、ラスター・グラフィックス、アニメーション、データ・バインディング、オーディオとビデオといった、数々のアプリケーション・サービスを統一することをその目的としています。

SL ジャパン、ソフトウェア開発環境展で、CEP (複合イベント処理) エンジンの BAM ダッシュボードとして「Enterprise RTView」を出展

日立製作所ブースでは、Cosminexus ストリームデータ処理基盤製品と SL 社の Enterprise RTView との接続を実演

2009年5月13日 第18回ソフトウェア開発環境展「SODEC」@東京ビッグサイト 発表・リリースより:

SL ジャパンは、5月13日から開催されたソフトウェア開発環境展において、CEP (複合イベント処理) エンジンの BAM (ビジネス・アクティビティ監視) ダッシュボード・ツールとして、Enterprise RTView を出展しました。また、株式会社日立製作所 (以下、日立) のブースでは、国産の CEP エンジンとして注目が高まっている日立の SOA プラットフォーム Cosminexus (コズミネクス) の「ストリームデータ処理基盤」製品に Enterprise RTView が接続されて、実演されました。

米国におけるホットなソフトウェア市場として注目されてきた複合イベント処理 (CEP) 分野の製品が日本国内にも市場投入され始め、国産としては昨年度日立からいち早くリリースされています。同社の Cosminexus ストリームデータ処理基盤では、インメモリ処理技術が実現する大量データの高速度処理で、金融・製造/流通・交通などのビジネスの現場で生じるさまざまな実世界情報をリアルタイムに収集、解析。現場の状態や問題点をすぐに把握でき、迅速な意思決定が可能になります。



SL ジャパン・ブース @SODEC

CEP エンジンは、絶えず生成されるデータをイベント・ストリームとして監視し、パターンやトレンドなどの設定ルールに応じてリアルタイムにメモリ上で分析して、アラート発生などのアクションを自動的に起動。ビジネスならびにオペレーションにおける機会と脅威のリアルタイムな検知を支援するものです。時々刻々と発生する大量のストリーム・データを随時メモリ上で高速に処理していく CEP エンジンとダイレクトに接続し、リアルタイムにダッシュボード画面にデータを集約・表示できる SL 社の高速な Enterprise RTView は、複合イベント処理 (CEP) におけるベスト・マッチなフロントエンドとしてリードしてきました。Aleri, Coral8, Progress Apama, StreamBase, TIBCO BusinessEvents などの主要 CEP ミドルウェア製品で活用されており、この分野における可視化技術のリーダーとして実績を誇っています。

高度な JMX 実装機能を持った Enterprise RTView に、新しい WMI アダプタを追加

米国時間 2009 年 4 月 22 日 カルフォルニア州コルテ・マデラ市発 プレス・リリースより:

リアルタイムな監視、分析、可視化ソフトウェアの提供でリードする SL 社は、Enterprise RTView の最新バージョン 5.3 で、Windows Management Instrumentation (WMI) へのエージェントレスなアダプタを追加し、Windows ベースのカスタム・アプリケーションの運用管理を支援強化する、と発表しました。この新しい WMI アダプタは、360° の全体観的なアプリケーション性能管理 (APM) において、Java ベースのカスタム・アプリケーションの監視と管理を可能にする Enterprise RTView の高度な JMX 実装機能を、補完するものです。

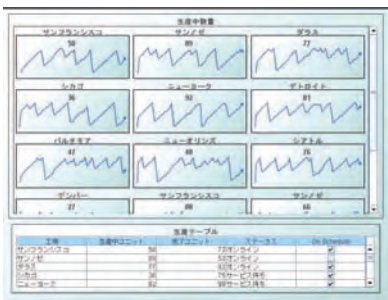
「数百にも及ぶことがある独自のカスタム・アプリケーションで構成されるシステム全体のアプリケーション性能管理 (APM) に対する顧客要求が激増している」と、SL 社の製品担当副社長であるロドニー・モリソンはコメントしました。「Windows ベース、そして Java ベースのカスタム・アプリケーションへの可視性を一つのダッシュボード画面で実現できる Enterprise RTView は、お客様の APM ソリューション構築において極めて重要になっている」と、追加しました。

WMI は、カスタム・アプリケーションを含め、WMI が実装されたアプリケーション・コンポーネントから性能に関する評価指標を取得するオペレーティング・システム・インタフェースを提供する、Windows 拡張機能のセットです。WMI は、スクリプト言語によって実装され、ローカルおよびリモート・コンピュータの両方を管理できます。

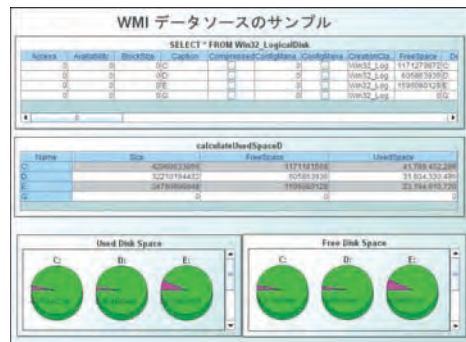
Enterprise RTView の WMI アダプタでは、WMI が実装された任意のマイクロソフト社製パッケージ・アプリケーションとカスタム・アプリケーションからの評価指標を、WMI のスクリプト言語を入力して取得することができます:

- インフラストラクチャ評価指標 (CPU 使用率、メモリ使用率、ファイル・システムの空き容量など)
- Windows イベント・ログ (ローカルとリモート・コンピュータの両方)
- インストールされたアプリケーション (ローカルとリモート・コンピュータの両方)
- SQL Server イベント、可用性、状態、構成
- Microsoft Exchange サーバ
- Microsoft IIS Web サーバ

その他、Enterprise RTView 新バージョン 5.3 では、ヒートマップ(左図)やスパークチャート(右図)なども追加されています:



「WMI データの付加」ダイアログで、任意の RTView ダイナミック・グラフィック・オブジェクトに接続(上図); 製品で提供されているサンプル(下図)



「Enterprise RTView ダッシュボードによるリアルタイム・データの可視化と Web 監視」セミナー (無料)

インフラ監視からサービスやオペレーション状況をリアルタイムに可視化して監視:

インフラ監視 ⊆ APM (アプリケーション性能管理) ⊆ BSM (ビジネス・サービス管理) ⊆ BAM (ビジネス・アクティビティ監視)

★日時・場所: 2009 年 6 月 25 日(木) 15:00 - 17:00 @エイバックスビル (東京・南青山、SL ジャパン所在ビル)

ミッション・クリティカルな運用システムのインフラ監視からアプリケーション性能管理 (APM)、ビジネス・サービス管理 (BSM)、ビジネス・アクティビティ監視 (BAM) まで、Enterprise RTView による可視化と監視について、ユザ様事例やデモンストレーションを交えながら、解説してまいります。

リアルタイム・データのダイナミックでグラフィックな可視化・分析・監視ツールとして実績を誇る Enterprise RTView では、コンテンツリッチながらも高速な「カスタム」ダッシュボード画面と監視機能 (アラート、ヒストリアン、レポートなど) を、ポイント & クリックのビルダーでプログラミングすることなく構成。XML, JMS, CEP, JMX, WMI, SQL, OLAP, カスタム・データなど、任意のデータソースに「メニュー選択」するだけで直接接続し、すぐに Web で監視・運用できます。任意の監視アプリケーションに適用、または組み込み提供可能です。

- セミナのお申し込みは、Newsletter 返信用ファックス、電子メール seminar@sl-j.co.jp またはホームページから承っております。
- セミナ内容の詳細については、ホームページをご参照ください。

Real-Time Visibility

年3回発行 2009年5月27日発行 通巻33号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山 3-1-30 エイバックスビル 3階
Tel. 03-3423-6051 Fax. 03-3423-6070 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。